



# 2010年3月期 第2四半期決算説明会

2009年12月1日

リバーエレクトック株式会社

(証券コード：6666 JASDAQ)

---

2010年3月期 第2四半期決算（累計期間）概要

取締役総務本部長 高保 譲治

---

2010年3月期 通期業績予想

代表取締役社長 若尾 富士男

---

重点施策の進捗状況

代表取締役社長 若尾 富士男

---



# 2010年3月期 第2四半期決算（累計期間）概要

(百万円)

	前年同期	2010年3月期 第2四半期		
		期初計画	実績	前年同期増減額
売上高	3,591	1,948	2,416	▲1,175
営業利益	▲47	▲835	▲490	▲443
経常利益	▲29	▲850	▲474	▲445
四半期純利益	▲242	▲1,007	▲414	▲172
EPS (円)	▲32.31	▲136.66	▲56.27	—

### ◆売上高

事業の中心である水晶製品事業において携帯電話向けなど一部受注がリーマンショック以前の水準に戻ってきているが、価格競争が厳しく、前年同期比32.7%の減収（期初計画比では24.0%の増収）

### ◆利益

大幅な減収に対し、生産体制の最適化による原価低減や人件費や業務合理化によるコストの圧縮等に努めたものの、減収を補うまでには至らず損失を計上

(百万円)

	前年同期	2010年3月期 第2四半期実績		
			増減額	増減率
売上高	3,591	2,416	▲1,175	▲32.7%
水晶製品	3,323	2,280	▲1,043	▲31.4%
抵抗器	131	48	▲82	▲63.1%
インダクタ	95	63	▲31	▲33.4%
その他	42	24	▲17	▲42.6%
営業利益	▲47	▲490	▲443	—
水晶製品	356	▲168	▲524	—
抵抗器	21	7	▲13	▲65.6%
インダクタ	8	6	▲1	▲23.1%
その他	15	7	▲8	▲53.4%
全社	▲448	▲343	105	—

**◆水晶製品**

携帯電話向けを中心として受注回復傾向にあり、数量的には前年同期並に戻るも価格競争が厳しく減収減益

**◆抵抗器**

製品ラインナップの見直しとTV、AV機器関連の受注が伸び悩んだことにより販売数量が減少

**◆インダクタ**

AVチューナー向けの受注が伸び悩んだことにより販売数量が減少

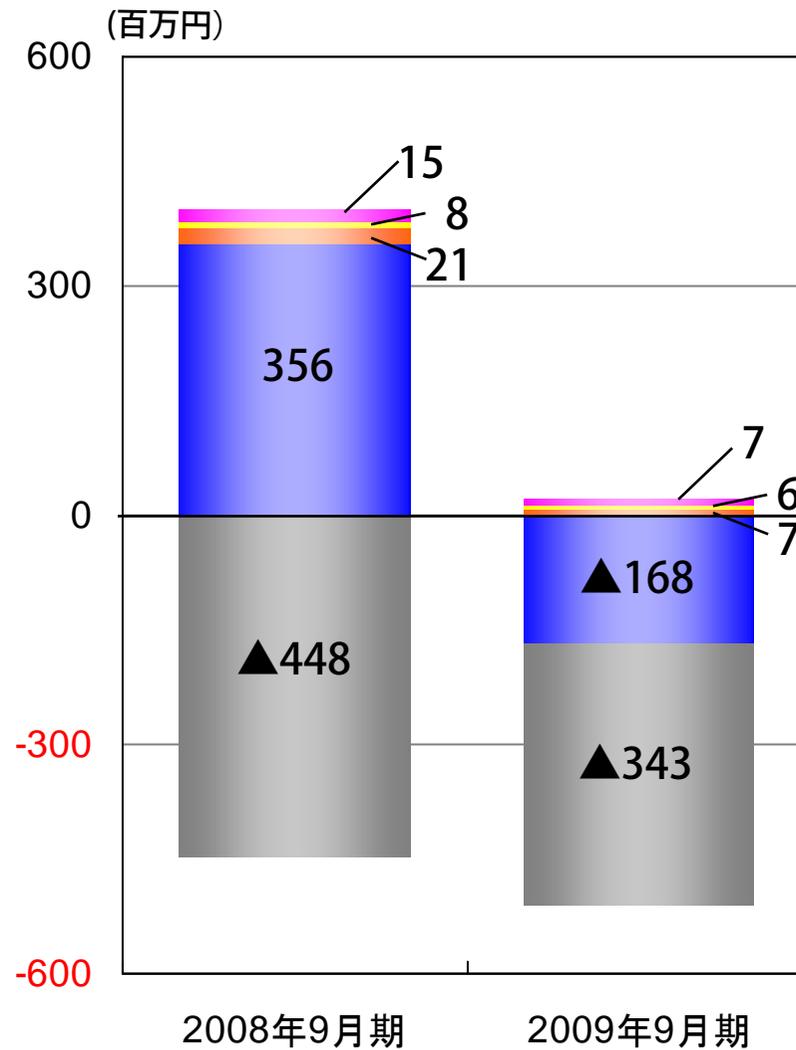
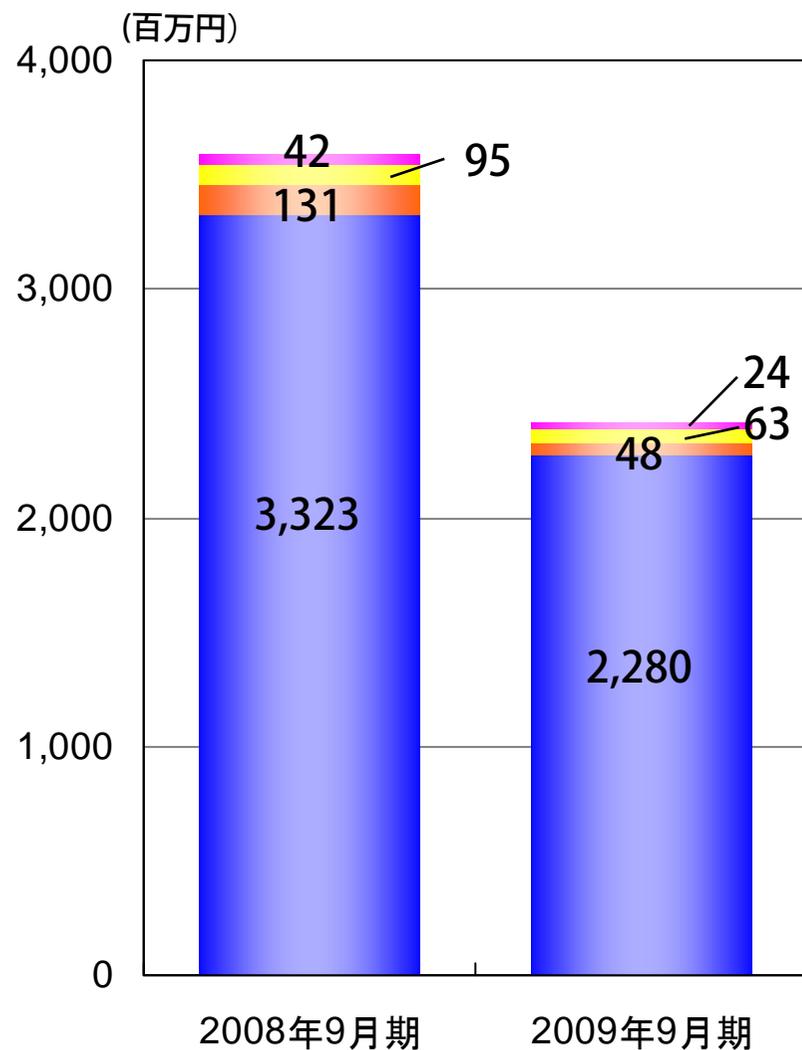
**◆全社 (主に管理部門に掛かる費用)**

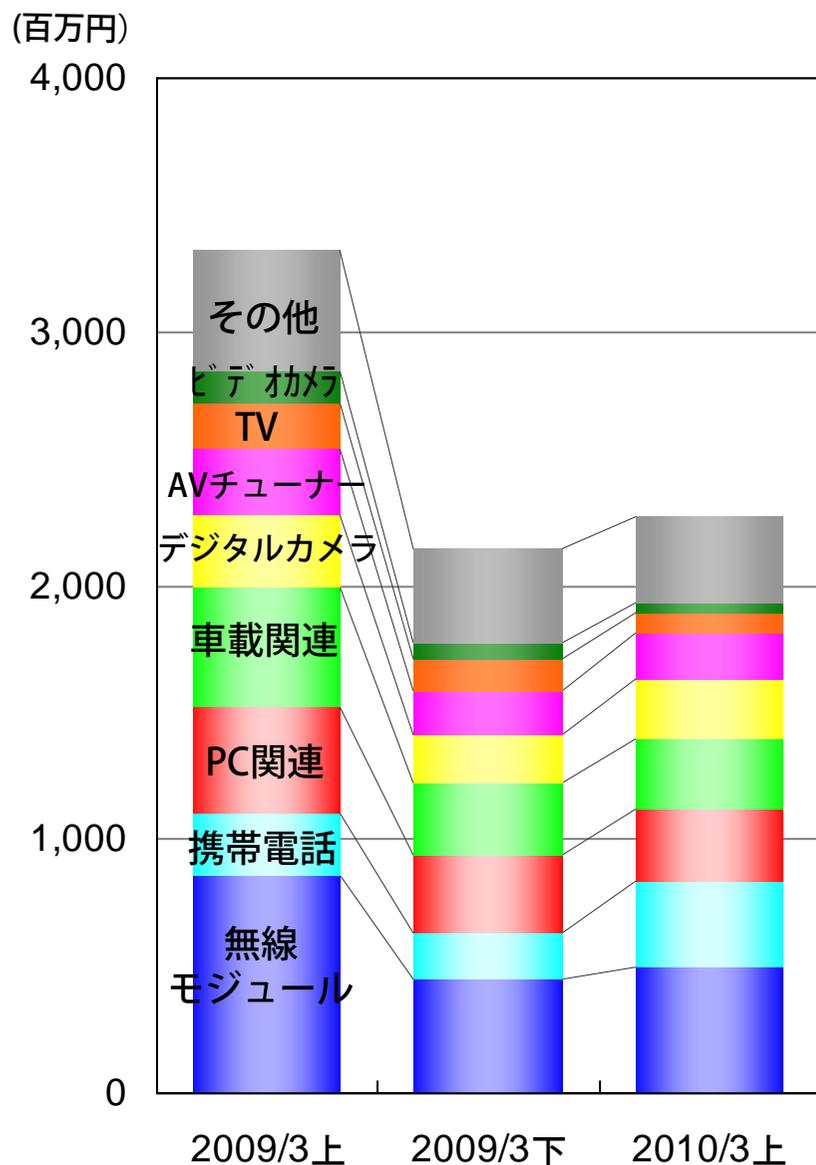
コスト削減に向けた取り組みにより1億円の削減

## 売上高

## 営業利益

■ 水晶製品 ■ 抵抗器 ■ インダクタ ■ その他 ■ 消去・全社





## ■ 前年同期比較

- 無線モジュールは数量微減だが、価格の下落が大きく売上高は減少
- 携帯電話は価格下落が厳しいものの、数量倍増により売上高は増加
- 車載向けは受注が振るわず、売上高は減少

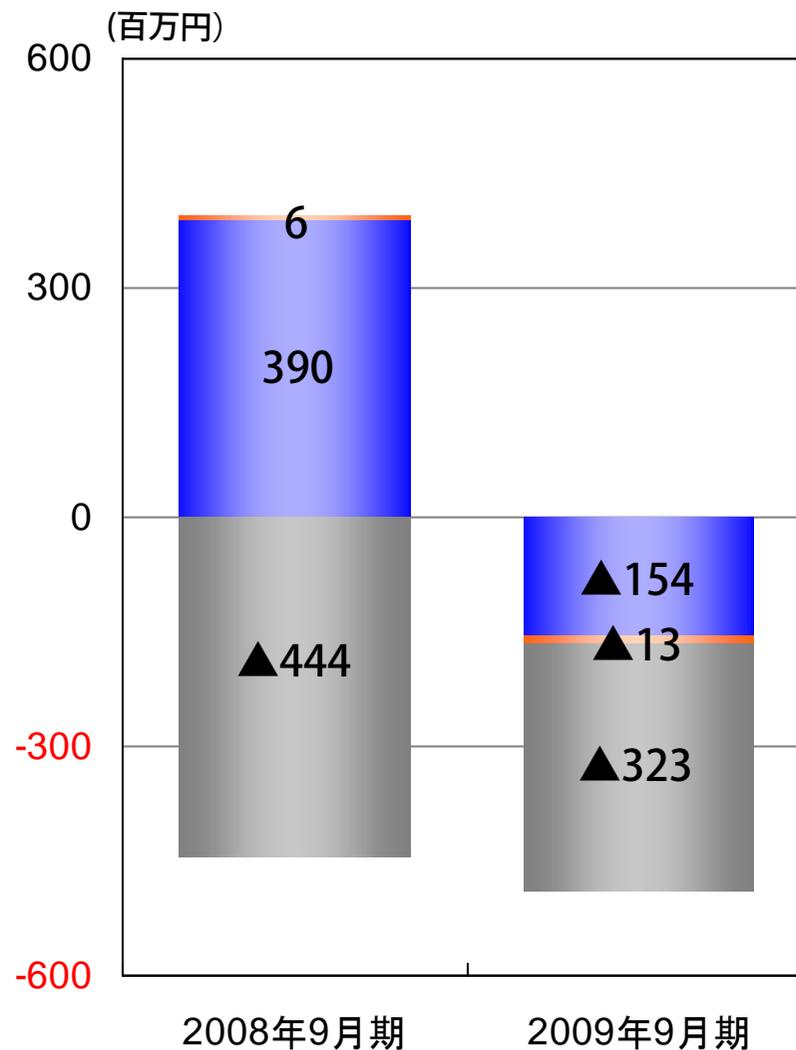
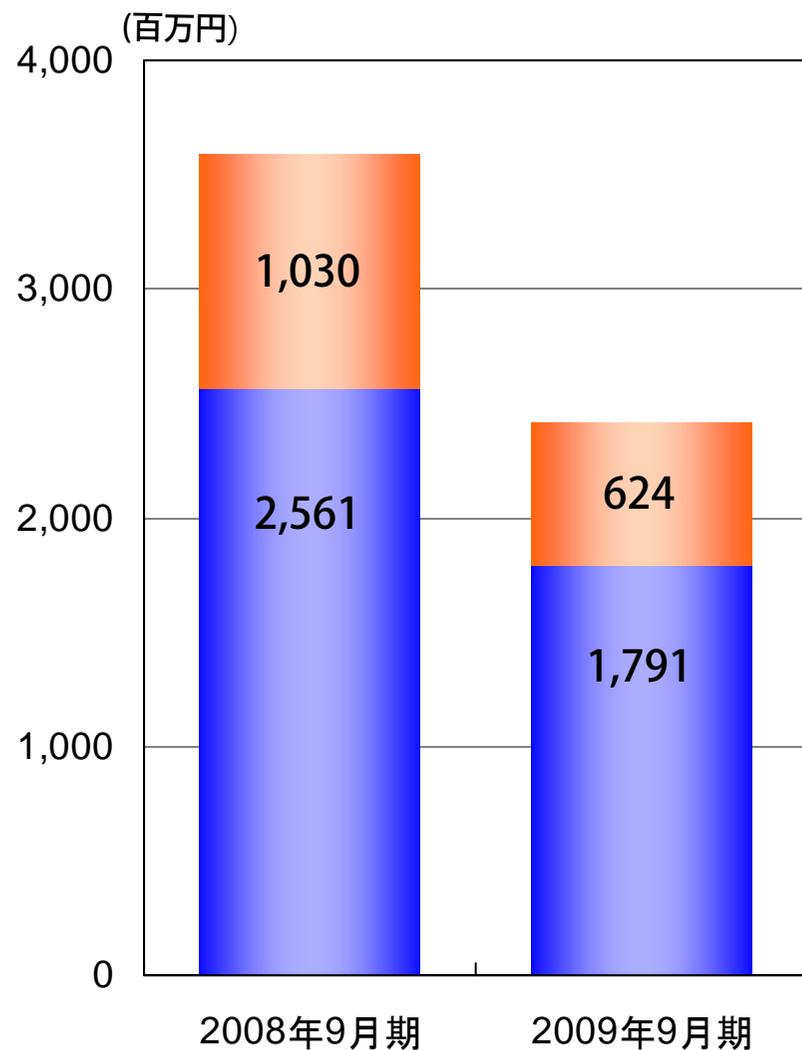
## 売上高構成比

	09/3上	09/3下	10/3上
■ 無線モジュール	25.8%	21.1%	22.0%
■ 携帯電話	7.4%	8.2%	14.9%
■ PC・周辺機器	12.7%	14.6%	12.4%
■ 車載関連	14.1%	13.0%	12.2%
■ デジタルカメラ	8.6%	9.0%	10.2%
■ AVチューナー	7.9%	8.0%	8.2%
■ フラットTV	5.4%	6.0%	3.5%
■ デジタルビデオカメラ	3.9%	2.9%	1.7%
■ その他	14.2%	17.2%	14.9%

## 売上高

## 営業利益

■ 日本      ■ アジア      ■ 消去・全社



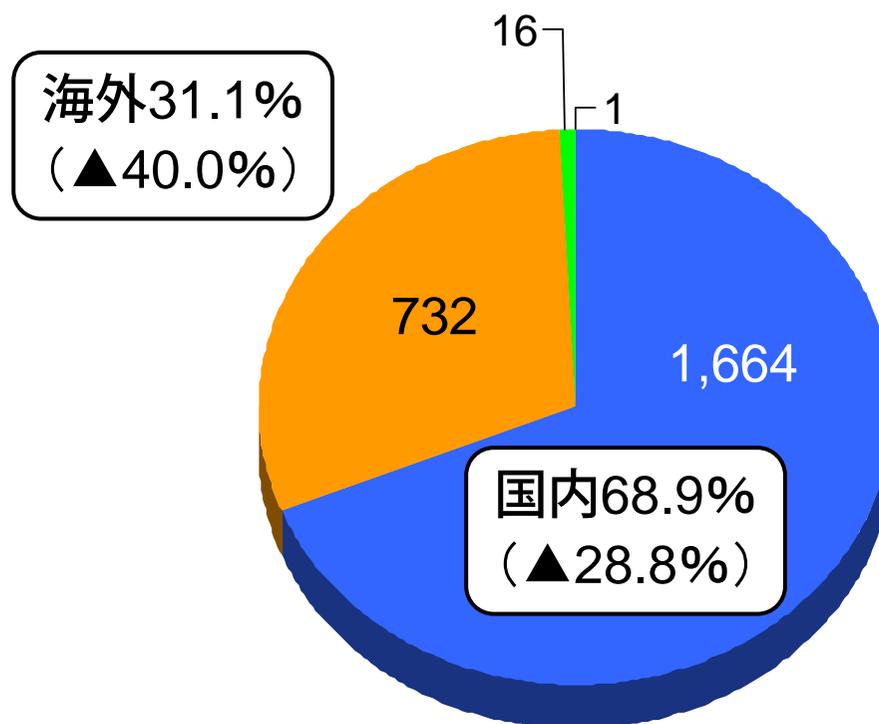
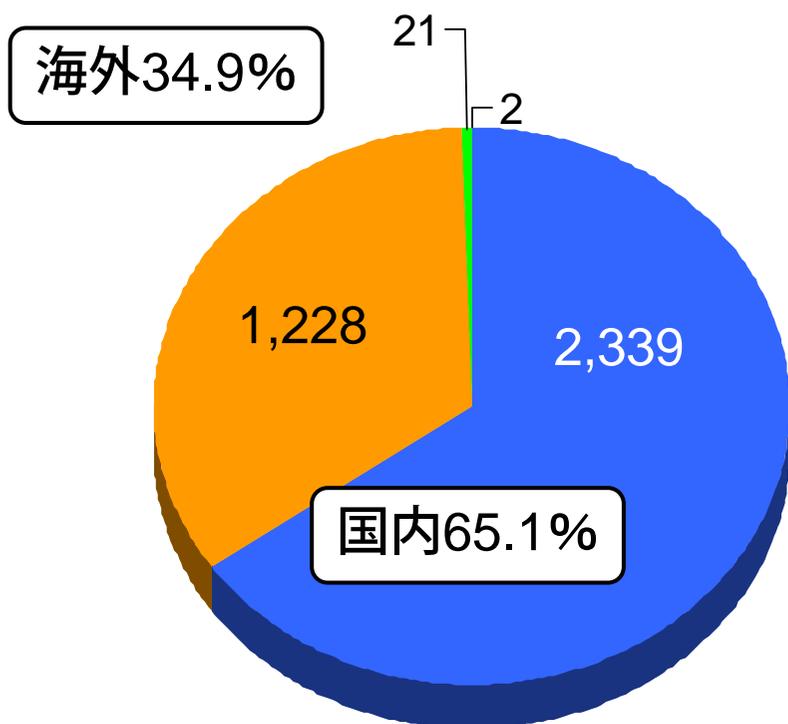
単位：百万円

2008年9月期

2009年9月期

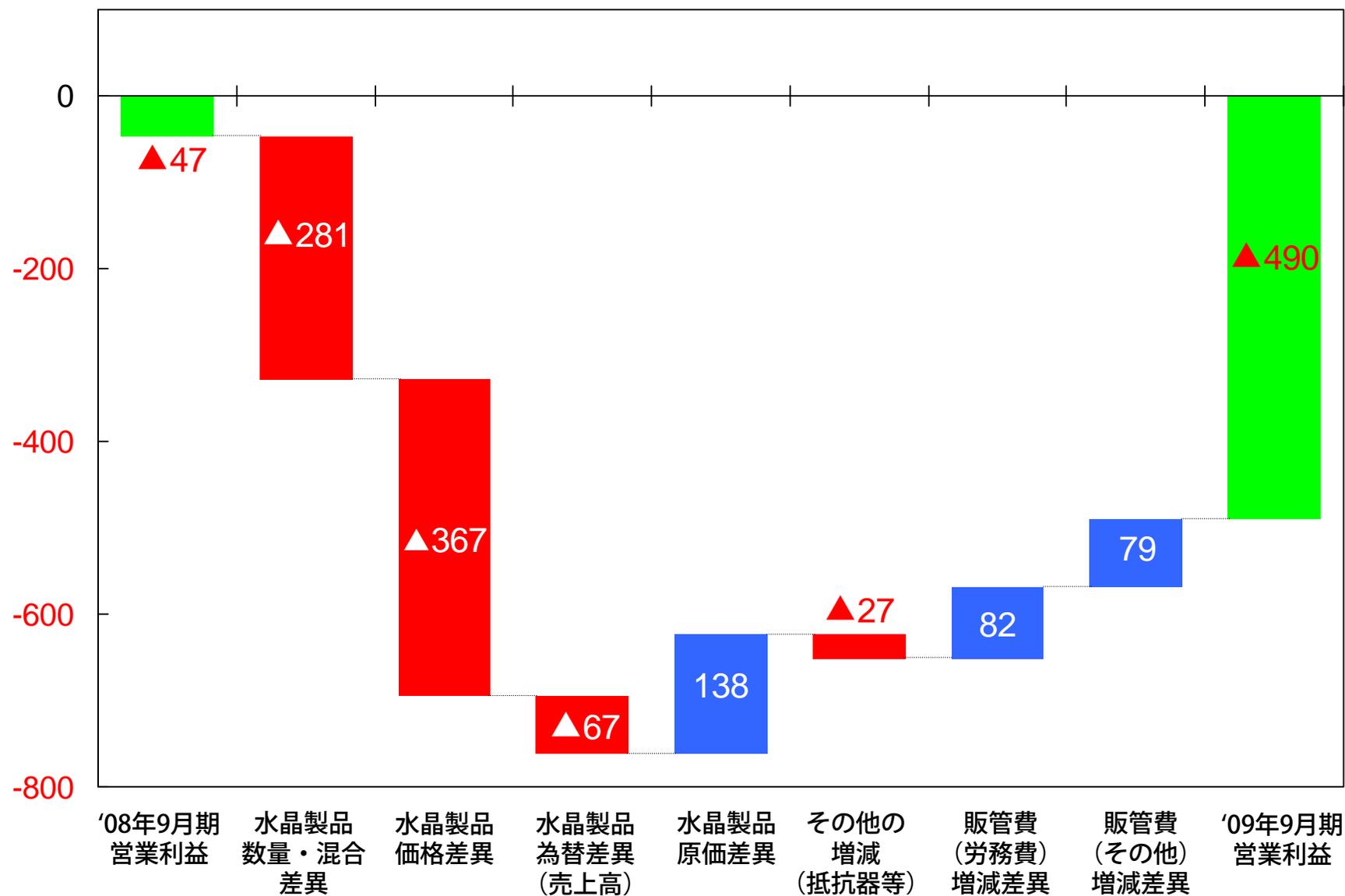
■ 日本 ■ アジア ■ 北米 ■ その他

■ 日本 ■ アジア ■ 北米 ■ その他

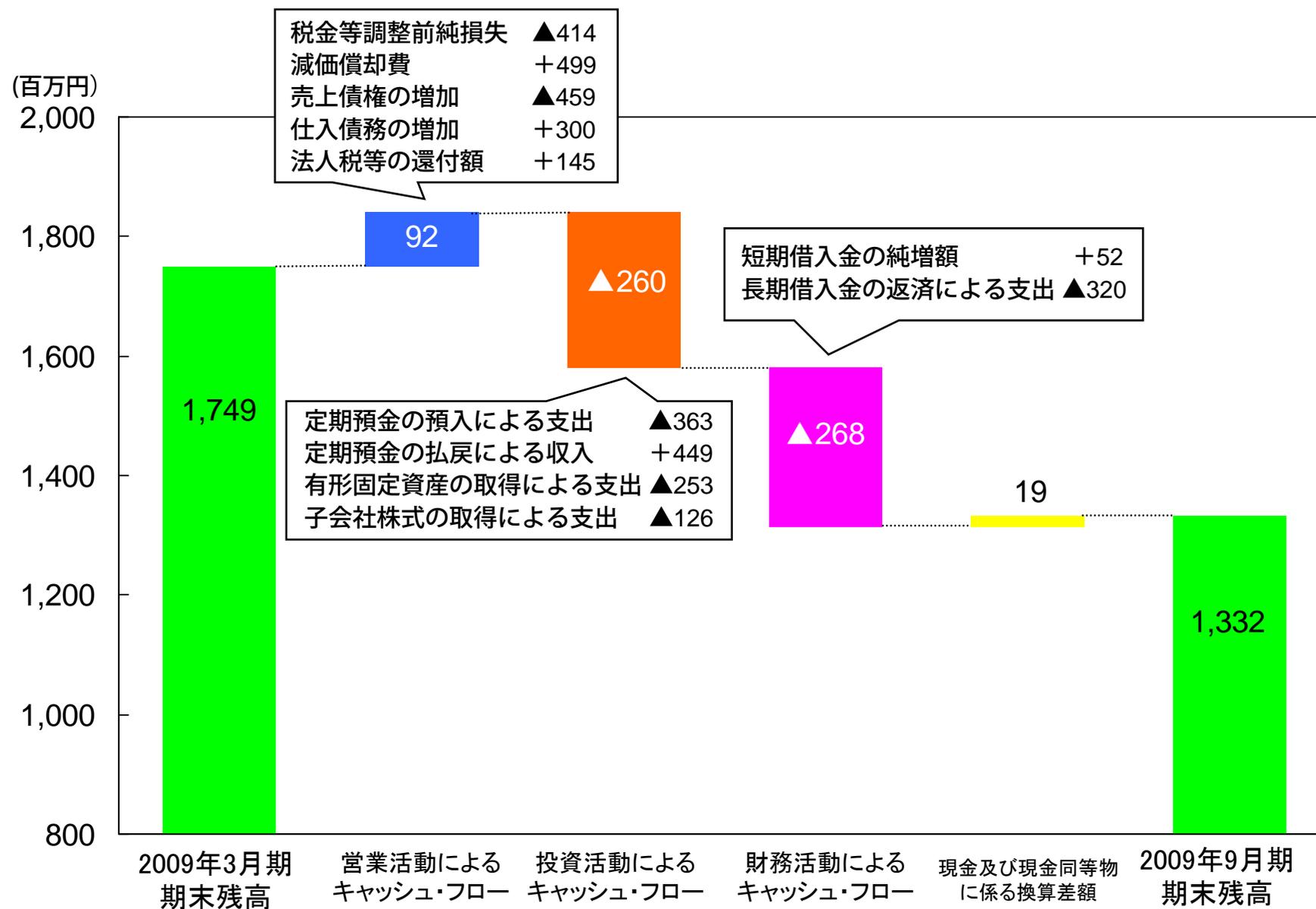


( ) は対前年同期比増減率

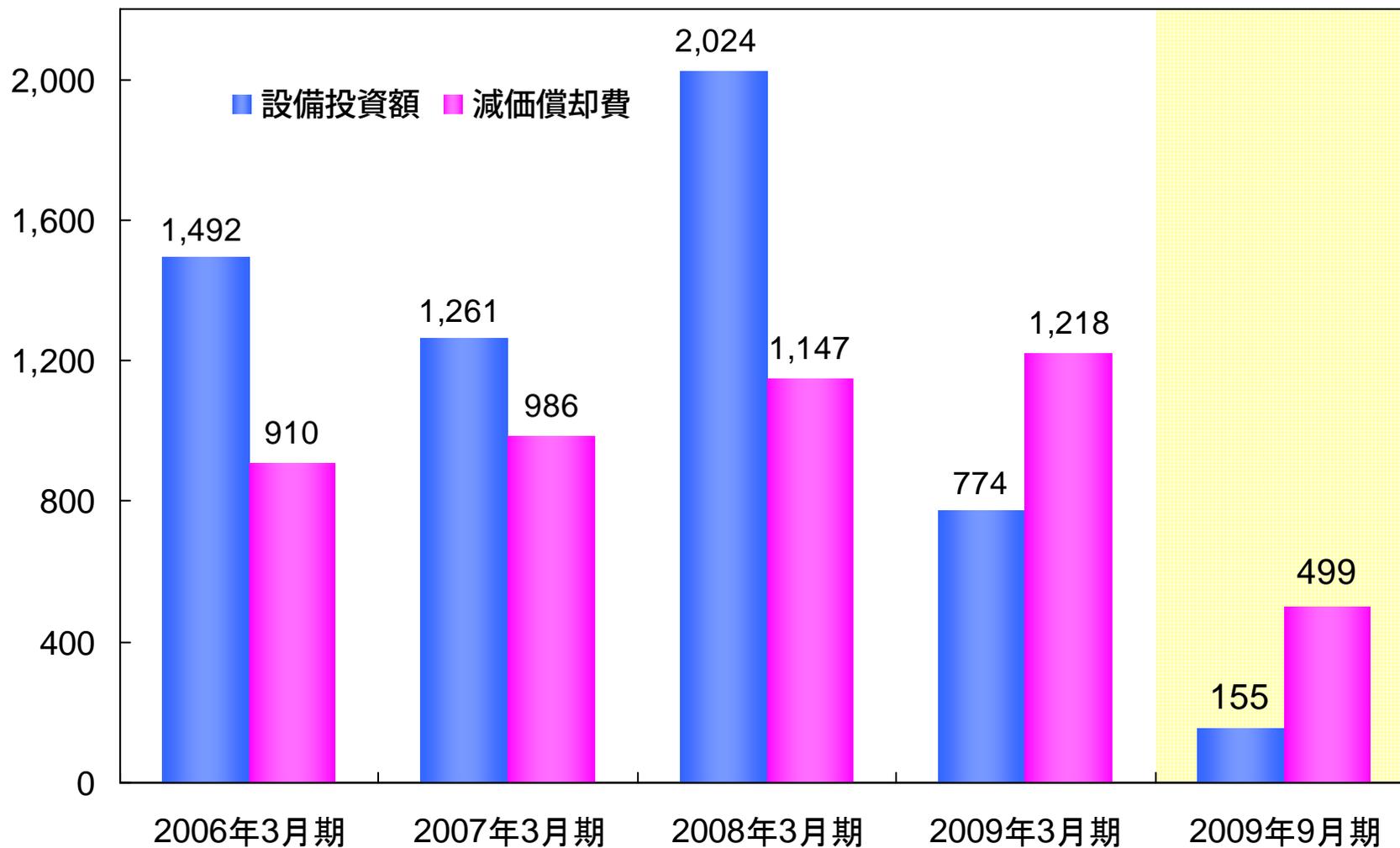
(百万円)



# 連結キャッシュ・フローの状況



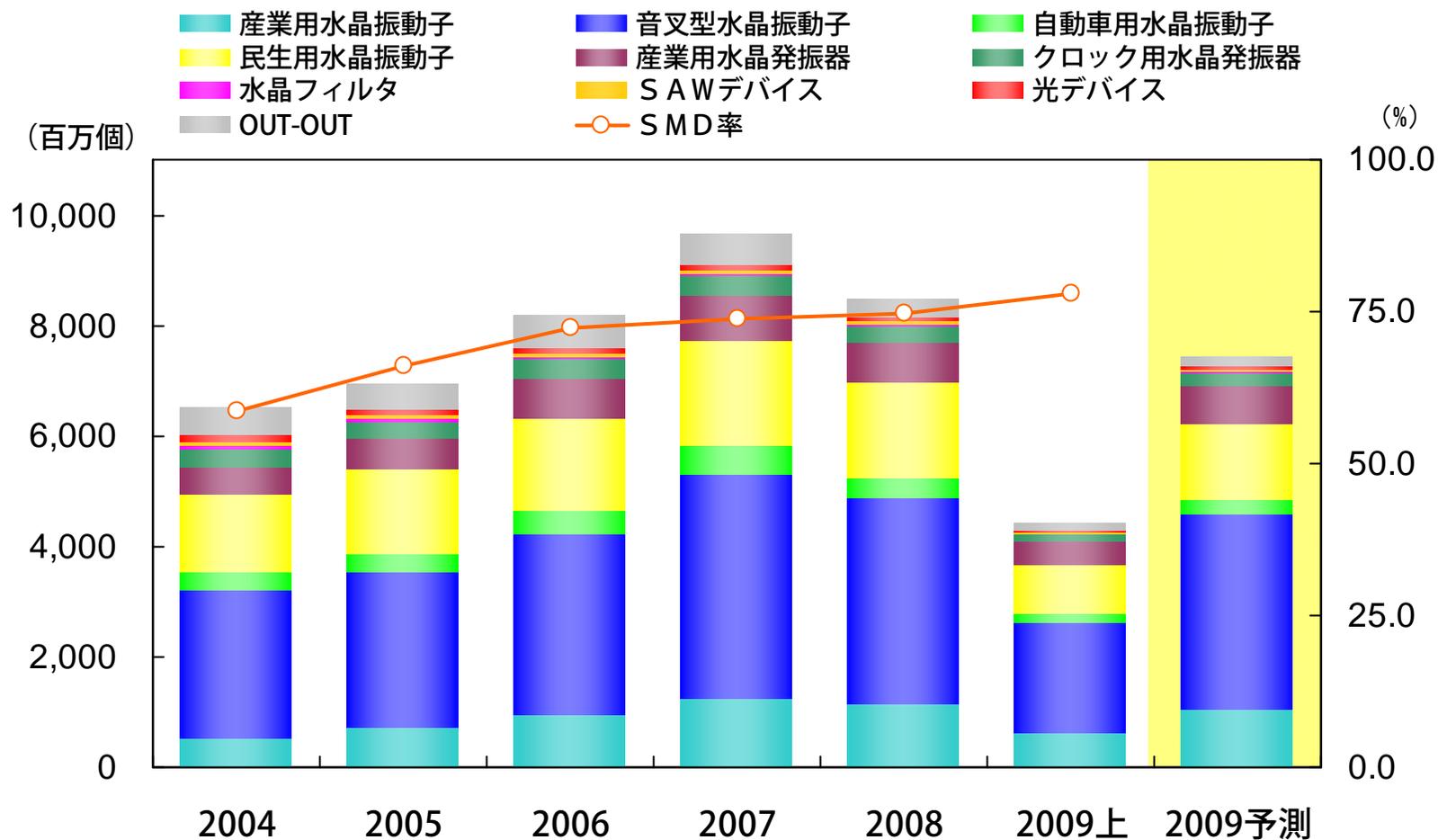
(百万円)



# 2010年3月期 通期業績予想

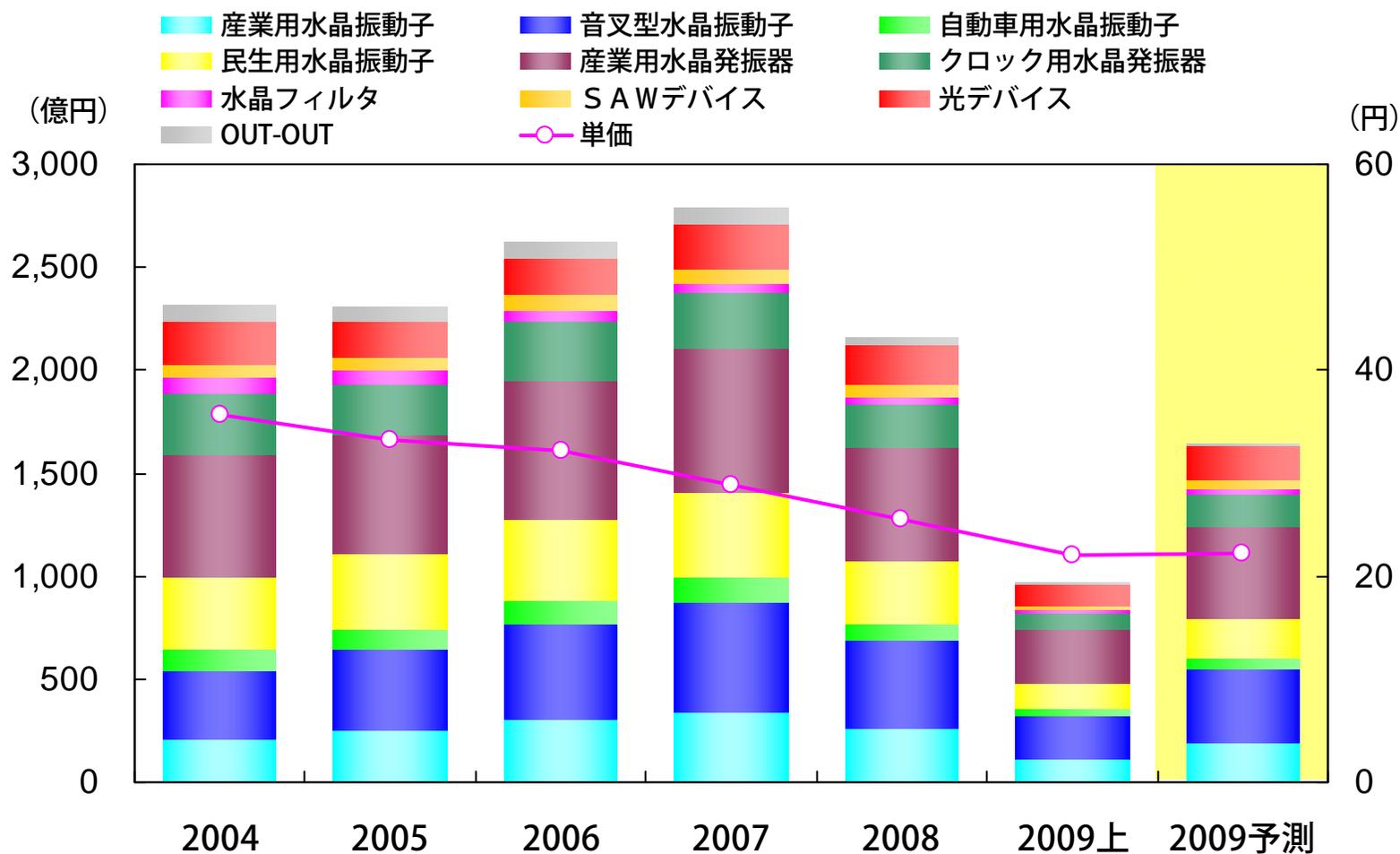


2009年度予測74億個（前期比87.8%）



（出所）日本水晶デバイス工業会（QIAJ）資料より、2009年度予測は2009年3月27日公表

2009年度予測生産金額1,648億円（前期比76.2%）  
単価は前期比86.8%



(百万円)

	前年同期	2010年3月期 通期業績予想		
			増減額	増減率
売上高	5,884	5,125	▲758	▲12.9%
営業利益	▲795	▲1,060	▲265	—
経常利益	▲794	▲1,050	▲255	—
当期純利益	▲1,425	▲1,095	330	—
E P S	▲190.67円	▲148.56円	—	—

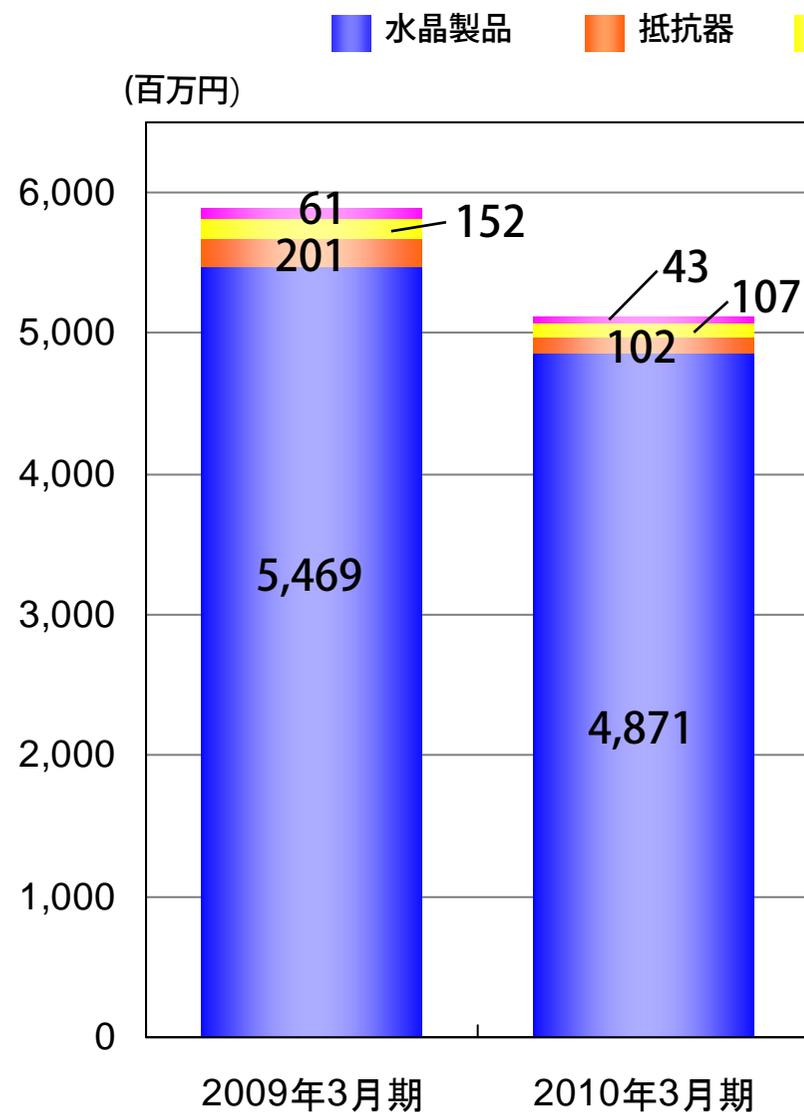
予想為替レート

第3四半期以降 1米ドル=90.00円

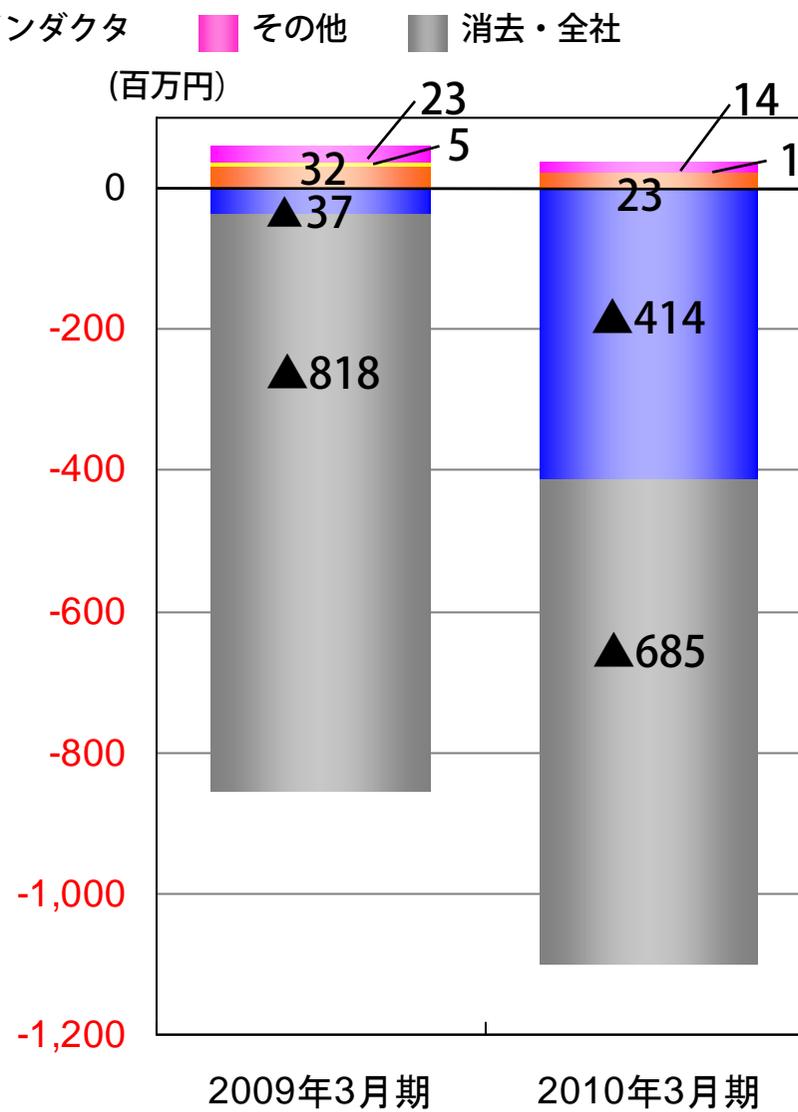
1円円高になると

売上高…1,000万円減少、営業利益…200万円減少

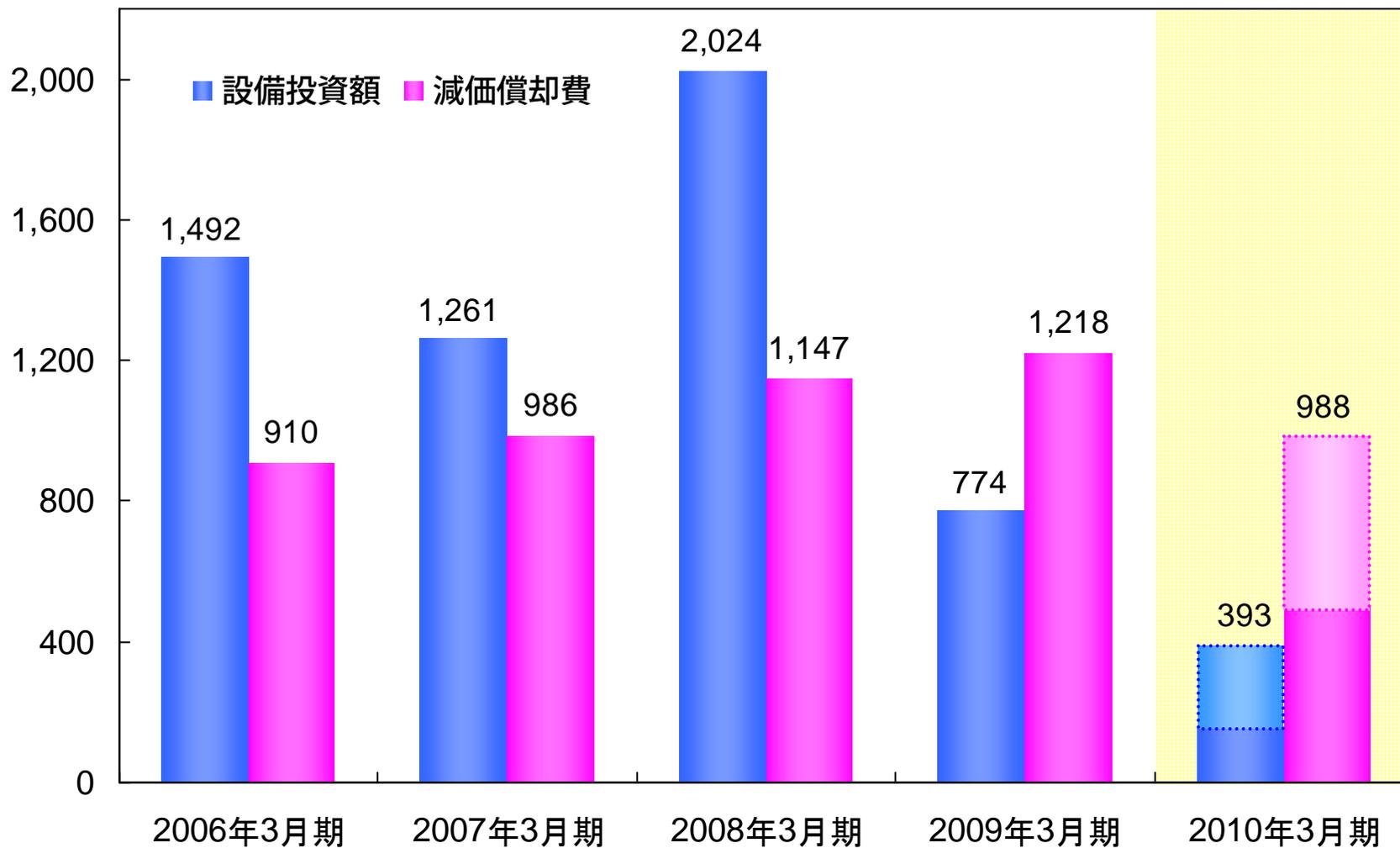
## 売上高



## 営業利益



(百万円)



# 重点施策の進捗状況



## ◆海外製造子会社において小型水晶製品の製造開始

River Electronics (Ipoh) において小型水晶製品の生産を8月から開始  
(当社グループにおいて水晶製品の海外生産は初)

(背景)

市場規模が収縮し、これまでにない厳しい経営環境下にあるなかで、  
早期のコスト競争力の強化が急務となっている

(なぜ小型製品か)

高品質・高信頼性の小型製品  
を得意とする当社グループが、  
今後の海外戦略において  
小型製品のコスト競争力を  
つけることは最重要課題



River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd.  
(マレーシアイポー)

## ◆TFX-03拡大傾向も音叉全体では市場伸び悩みが影響

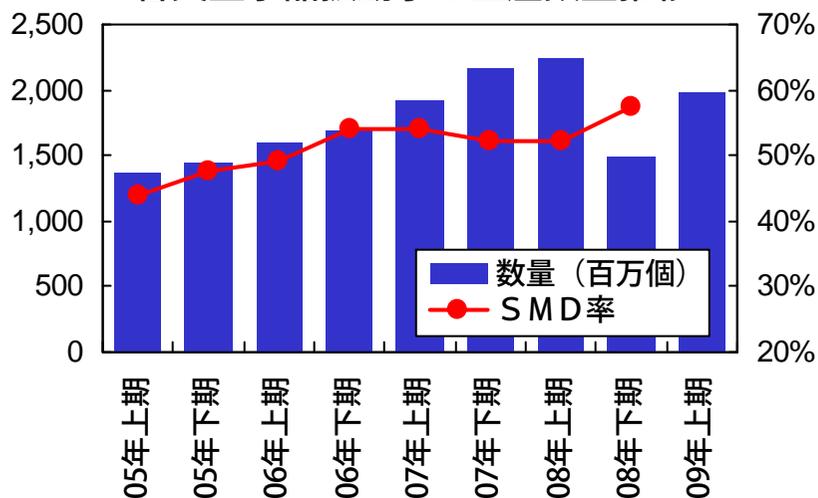
(今後の展開)

海外市場の開拓

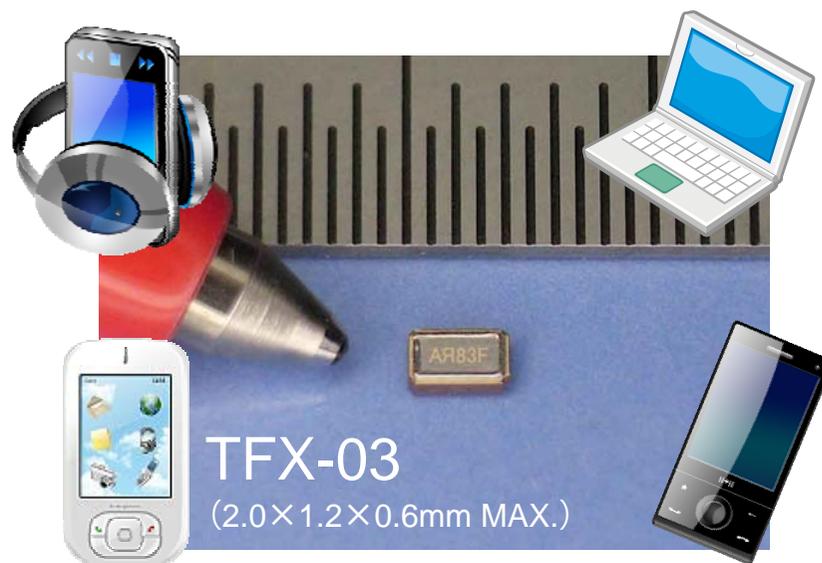
歩留まり改善、生産性up  
による原価低減

## 今後の成長のキーデバイスに

音叉型水晶振動子の生産数量推移



(出所) 日本水晶デバイス工業会 (Q I A J) 資料より



ターゲットは携帯電話、シリコンオーディオ、PC等

## ◆ 海外販売子会社の設立

中国西安市に100%販売子会社「西安大河晶振科技有限公司」を10月に設立  
(背景)

最先端のモバイル機器なども  
中国での受託生産化が進む

中国経済の発展に伴う  
内需の拡大

今後の海外展開など成長  
戦略に向けた販売チャネル  
の確立と営業の強化を推進



**期初計画の目標**  
(2009/3期比)

固定費	10%削減
うち人件費	17%削減
うち減価償却費	15%削減

**2010/3期通期見通し**

(2009/3期比)

<u>固定費</u>	<u>13.2%削減</u>
<u>うち人件費</u>	<u>18.2%削減</u>
<u>うち減価償却費</u>	<u>18.5%削減</u>

コスト軽減に向けた取り組みを継続実施し、  
更なる固定費の圧縮を推進する

《注意事項》

本説明会にて提供した情報につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。



リバーエレテック株式会社  
(JASDAQ、証券コード6666)  
<http://www.river-ele.co.jp/>  
総務部経営企画課  
TEL 0551 (20) 1277